

都立八潮高等学校

【校長】 飛田 丞
【生徒数】 584名
【学級数】 18学級



【実態・目標】

○学んだことを他人事として考え、自分の将来と関連するという意識が希薄な生徒が多い。

⇒ 学んだことは、進路とも深く結びついていることを生徒が実感できるような指導を行う。また、生涯の健康に関する理解という点から、ライフプランを考えるなどの取り組みを行う。

目標

・性に関する健康問題の理解を深める。

【課題・改善】

○学んだ知識を自分事と捉えて、それをもとにこれからの人生設計をしていくことにまだ現実感をもてない生徒もいる。

⇒ 【今後の取組】

○保健体育科だけでなく、様々な場面において学んだことと関連するような指導を学校全体で取り組んでいく。

【取組】

○アクティブ・ラーニング形式の授業や映像資料を使用した。

○教員の指導力向上のために、第51回全国性教育研究大会（熊本県開催）に参加した。

○産婦人科医を招へいた公開授業を実施し、生徒の性に関する健康問題の基礎知識を身に付けた。

【成果】

○生徒の意識に関する成果

性に関する健康問題は、遠い未来の話ではなく、まさに今と深く結びついていることを意識するようになった。

○生徒の態度に関する成果

進路について考える際に、性に関する健康問題を考える姿勢が見えた。

○その他（教員の授業改善など）

全教員が産婦人科医の話聞いたことで教員間の連携がしやすくなった。

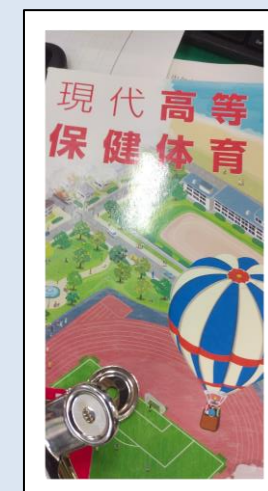
【取組（詳細）】

○ 保健におけるアクティブ・ラーニングの取り組み

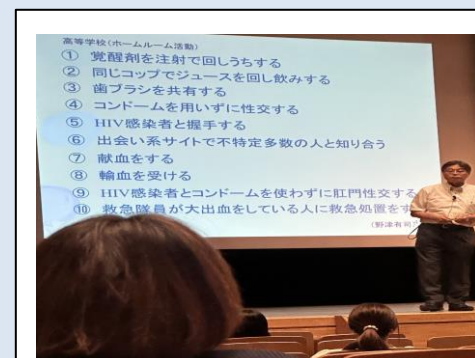
保健の授業において、一人1台のパソコンを有効に使い、生徒一人一人の意見や変容を把握し、それを反映させた授業をすることによって、生徒が学んだ知識を自分事として捉えることができる授業を展開した。

また、グループワークなどを行い、様々な角度から意見を検討することで学習を深めた。

生徒は、教員や同級生との対話を通じて、多様な意見や考え方があることを学んだ。



○ 教員の指導力向上のため全国性教育研究大会に参加



全国性教育研究団体連絡協議会

基調講演として学習指導要領に基づく、性に関する指導の講演並びに「今、学校に求められる性教育とは何か」をテーマにした講演を通して、性に関して、発達段階に応じた責任の下で適切に自己決定し、行動選択できる力を身に付けることが大切であることが求められていることを学んだ。

○ 産婦人科医を招へいた公開授業の実施

●授業内容の説明

性に関する健康問題について、産婦人科医が実際に見た現場の様子をもとに基礎知識を確認した。

●生徒の様子

教科書で学んだ知識の上に、産婦人科医の臨床知識を学んだことで、今後の実生活に生かせる機会となった。

●外部人材を活用した授業について

専門家ならではの具体例を通して、生きた知識を学ぶことができた。



産婦人科医を招へいた公開授業の様子